

住吉大社駅(南海本線)④

住吉大社から安立へ！紀州街道を歩く

安立町駅・住吉鳥居前駅(阪堺電車阪堺線) 住吉公園駅(阪堺電車上町線)
住ノ江駅(南海本線)

「大阪あそび歩マップ集」
その1 No.040

南海住吉大社駅

①住友灯籠

江戸時代から昭和初期にかけて、住友家の歴代当主によって奉獻された灯籠です。この灯籠は海辺に続く道「汐掛の道」に建てられて、海上安全と家業の繁栄を願って寄進されたといわれています。

②紀州街道の碑

大坂・高麗橋から堺筋を南に下り、天下茶屋、住吉大社、堺などを経て、紀州・和歌山へ至ります。江戸時代は大名や商人たちの往来で賑わいました。紀州街道のすぐそばまで海岸線が広がり、白砂青松の景勝地で有名でした。

③御祓橋

昔、この橋の上で、住吉大社の夏祭の「かがり火」を焚いて、神輿の奉送迎をしたことから名づけられました。橋の際には「小町茶屋」といった茶屋もあったといえます。



④難波屋の笠松跡

江戸時代には難波屋という茶屋があり、その庭には枝ぶりがすばらしい松があって、紀州街道の名物でした。見物料の代わりに団子売っていて「笠松は低いが団子は高い」と風刺されたといえます。昭和初期まで団子

を売っていましたが、残念ながらとに戦後の食糧難で土地を開墾して芋などを植えたことから土に栄養がなくなり、笠松は枯死しました。しかし安立小学校にて安立笠松会が松を植樹し、大きく育てて笠松の復活、伝承を試みています。

⑤霰松原

かつて、この地は海に沿った白砂青松の地で、その白い砂と松の緑の美しい景観から、いつしか「霰松原」と呼ばれる名所となりました。天武天皇の第4皇



子・長皇子も慶雲3年(706)の文武天皇の難波行幸の際に当地を訪れ、「霰打つ あられ松原 すみのえの 弟日娘と 見れど飽かぬかも」の歌を詠み、その歌

⑥ジョイフル安立(安立商店街)

「安立」という地名は元和年間(1615~24)に、名医として名をせした典薬頭・半井安立が当地に居を構えて、その治療を求めて人々が集まって、いつしか町を形成したことが由来です。ジョイフル安立は安立中央、本通り、東通り、銀座通りの4つの商店街で構成され、100年以上続くような老舗も数多く残っています。また江戸時代には、住吉大社の一法師伝説にあやかって針商人が「みすやの針」を売って儲けたといえます。

阪堺安立町駅

